

# 遊佐町教育委員会だより

令和7年12月15日

問合せ ☎ 72-5891

## 今年度も学校行事を通して「確かな成長」がみられました！

＊ 10/31（金） 遊佐中「輝雄祭合唱コンクール」 ＊

＊ 11/15（土） 遊佐小「ゆざっこ学習発表会」 ＊

10月31日に遊佐中学校では「輝雄祭」が開催され、全学級の美しいハーモニーが体育館中に響き渡り、会場全体が感動の渦に包まれました。特に、3年生の合唱は毎年レベルアップしており、どの学級も心にしみる完成度でした。有志による「遊佐賛歌」は、まさにブラボー！これからも、伝統として継承して行ってほしいものです。一方、11月15日には遊佐小学校で「ゆざっこ学習発表会」が開催されました。全学年趣向を凝らした内容に、会場全体が割れんばかりの拍手に包まれました。限られた時間で集中して取り組んだ練習の成果は迫力満点。一人一人が輝いていました。特に、6年生にとっては小学校生活最後の発表会になりましたが、歌と笛とパフォーマンスに込められた思いは、しっかりと1年生から5年生の心に届いていました。

遊佐町の子どもたちは、学校行事を通して大きく成長します。それは、これまでの先輩が築いてくれた伝統を毎年ブラッシュアップし、さらにハイレベルな内容に創りあげようとする集中力と団結力が、子どもたち全員の心に根付いているからです。鳥海の高きに向かう志は子どもたちの姿に現れ、確かな成長の軌跡を辿っています。



6年生は小学校生活のフィナーレを飾りました



会場が全学年の歌声に引き込まれました！

＊ 今年度の四大祭も無事に執り行うことができました ＊

遊佐町出身の偉人を顕彰する「四大祭」が無事に執り行われました。遊佐小が統合してから、5/15の諏訪部祭は5年生、7/16の戴邦碑祭は中学3年生、10/14の政養祭は6年生、11/10の藤蔵祭は4年生が学習し、各祭典で児童生徒の代表が感想を発表しました。4人の偉大な功績に感謝するとともに、自分にできることを一人一人が真剣に考えていることに、参列者一同盛大な拍手を送っていました。

結びに、猛暑が終わって秋を迎えたと思った矢先、冬の足音が聞こえてきました。今年度は、熊の出没情報も連日のように報道されています。冬期間も、登下校の安全安心を第一優先に考えて対応して参りますので、よろしく願い申し上げます。

## ～ 遊佐町少年議会、精力的に活動しています！ ～

遊佐町少年町長・少年議員公選事業は、今年度で第23期目を迎えました。当事業の活動は、町に要望を伝える「一般質問」と町や若者の活性化のための「少年議会独自政策の実現」の2つになります。これまでの実績について、「一般質問」では登下校で使う暗い道に街路灯が設置され、「独自政策」では町イメージキャラクターの米～ちゃんが誕生するなどしてきました。

今年度の政策は、「ゆざまち防災キャンプ(11月23日)」の開催と「遊佐町をPRする葉」の作成の2つを計画しています。少年議会では毎年有権者(町内在住・在学の中高生)に対しアンケートを実施しており、有権者の声を反映させて政策を行っています。「一般質問」「少年議会独自政策の実現」のために少年議会のメンバーだけで協議を進めていく全員協議会は、今年度は第19回まで開催されており、過去最多となっていました。

12月19日(金)の18時30分から、遊佐町役場の議場にて第三回少年議会が開催され、今年度の事業報告を行いますので是非傍聴にお越しください。



全員協議会の様子



段ボールベッドとテントの設営を練習

## 自分の夢に向かって!! ～ 『学習支援塾』スタート ～

夢の実現に向けて、受験勉強に取り組む遊佐中3年生を町全体で応援する「学習支援塾」がスタートしました。今年度は9月13日から2月7日までの土曜日の午前15回、生涯学習センターを会場に実施予定で、71名の生徒が参加しています。

初回から、やる気あふれる受験生の、真剣に問題に取り組む姿や講師の先生に質問する姿、友達同士教え合う姿が見られました。自分の進度に合わせて、数学と英語の学習がどんどん進んでいます。

講師の先生からは「生徒の正対して話を聞く態度がとてもよく、問題に意欲的に取り組み、学ぶ楽しさを実感している様子が伺われて今後も楽しみ」等の感想をいただき、頼もしさを感じています。

遊佐町の未来を担う若人に応援をよろしくお願ひします。



講師の先生に聞きながら真剣に学ぶ遊佐中生

# ～ 遊佐町小中高連携活動「希望の灯をともし会」 ～

町では幼保小中高が連携した活動に取り組んでいます。今年度も小中一貫教育推進委員会を開き、小中連携に力を入れて取り組んでいます。また6月には小中高連携活動として「海岸清掃」を行いました。7月には幼保小担当者研修会を行い、つながりや連携を大事にして取り組んでいます。

10月8日に、生涯学習センターのホールで中村哲さんのドキュメンタリー映画「荒野に希望の灯をともし」の特別上映会を行いました。今回は遊佐小学校5,6年生、遊佐中学校と遊佐高等学校の全校生徒が参加しました。

映画に登場する中村哲さんは、アフガニスタンとパキスタンで35年にわたり、病や戦乱、そして干ばつに苦しむ人々に寄り添いながら命を救い、生きる手助けをしてきた医師です。NGO 平和医療団日本(PMS)を率いて、医療支援と用水路の建設を行ってきました。活動において特筆すべきことは、その長さだけでなく、支援の姿勢がぶれることなく一貫していたことです。一連の活動は世界から高く評価され、中村医師は人々から信頼され、愛されてきました。今、アフガニスタンに建設した用水路群の水が、かつての干ばつの大地を恵み豊かな緑野に変え65万人の命を支えています。

しかし、2019年12月に用水路建設現場へ向かう途中、中村医師は何者かの凶弾に倒れました。その突然の死は多くの人々に深い悲しみをもたらしました。一方で私たちに強く問いかけ、中村医師が命を懸けて遺した物は何なのか、その視線の先に目指していたものは何なのかを考えさせられました。

児童生徒がその生き方に学び、課題意識を持つ機会になり、自分にも「何かできることがある」という当事者意識を高めることができました。

## 「上映会後の児童生徒の感想」 ※感想用紙から一部抜粋

### 小学5年生

中村さんの行動や生き様を見て「失敗してもあきらめない」ということを学んだ。1番すごいなと思ったことは、医者なのに井戸や用水路を協力し合って作っていたことだ。中村さんのようなすごいことはできないけど、できることはやりたいと思った。

### 小学6年生

長年に渡る中村さんの活動は、人々に大きな信頼と希望を与えていたことが伝わってきた。中村さんが亡くなられた後も現地の人に中村さんの遺志が引き継がれていて感動的だった。中村さんのあきらめずに取り組む姿勢を真似しようと思った。

### 中学1年生

中村さんは医者として人々を救うだけでなく、水路を作り、現在も多くの人が豊かに暮らされていると知り、同じ日本人として嬉しく誇らしくなった。自分も人に生きる幸せを感じさせることができる職に就きたいと思った。今度中村さんの本を読んで自分なりに「平和」を考えようと思った。

### 中学2年生

新しいことに挑戦し、苦難や壁にぶつかりながらも現地の人々のことを優先している中村さんはとてもかっこよかった。「裏切られたら私たちは裏切り返さない」という言葉を聞いて信頼される人や物事を達成する人はこういう人なのだと思った。自分も挑戦し壁を乗り越え、達成する人になりたい。

### 中学3年生

自分が同じ状況に置かれたらこんなにすごいことはできないと思う。中村さんは挑戦しアフガニスタンの未来を明るくした。その行動力に心を惹かれた。協力は互いに幸せにすることだと改めて感じた。思いが行動に変わり、そして希望が変わったことに感動した。幸せは人によって違うけど自分も人の幸せを作りたい。

### 高校1年生

大変な地域で中村さんが病気や生活環境で困っている方々を助けているその信念が強く、その姿からすごい生き様だなと思った。将来介護職に就きたいと考えているので中村さんのように、困っている人を助けられるようになりたいと思わせてくれた素敵な映画だった。

### 高校2年生

小中高連携活動の機会は貴重なものだった。みんなで一つの映画をみんなで見るとは無かったので新鮮な気持ちになった。中村さんの生涯の一部を見ると世界・人・医療・自然など幅広い分野のものが関係しとても考えさせられる深いものだった。自分自身、海外に行った経験やボランティアの経験から共感したり考えさせられたりした。将来の自分の生き方を考え、進んでいきたい。

### 高校3年生

映画を見てとても感動した。中村さんの生き様や功績について理解することができた。上映の中で一番印象的だったのは用水路の建設だ。数々の苦勞の末に成し遂げたところでは自然と涙が出てきた。今回の上映でいろいろなことを学ぶことができ、世界規模の問題を知ることができ、とてもいい機会になった。

## ～ 第63回遊佐町民俗芸能公演会が開催されました ～

10月26日(日)、第63回遊佐町民俗芸能公演会が遊佐町生涯学習センターで開催され、町内の豊かな民俗芸能が一堂に会しました。昨年度は大雨災害の影響で中止となったため、2年ぶりとなった公演会は、4つの町内保存団体に加え、酒田市から「新町稲荷神社獅子舞保存会」、兄弟町である宮城県大崎市から「鬼首神楽保存会」の2団体が出演しました。

舞台では、地域に大切に受け継がれてきた神楽、獅子舞など、さまざまな演目が披露されました。それぞれの保存会が日頃の練習の成果を発揮し、古くから伝わる所作をときにおごそかにときに激しく演じる姿に、会場は大きな拍手に包まれました。特に、子どもたちが堂々と舞台に立つ場面は、地域全体で伝統を未来へつなごうとする力強ささえ伝わるものでした。

今年の公演会のトリを務めたのは、横町神代神楽保存会です。同保存会は、地域の小学生からベテランの年配の方まで、幅広い年代の会員が参加していることが特長です。世代を越えて共に神楽を担うことで、技の継承だけでなく、地域のつながりや子どもたちの成長の場にもなっています。迫力ある囃子と勇壮な舞が会場を魅了し、公演会の締めくくりにあふさわしい雰囲気が創り出されていました。



横町神代神楽保存会の迫力ある刀くぐり

## ～ 史跡小山崎遺跡整備がスタートします ～

令和8年度以降に計画する史跡小山崎遺跡整備事業の着手に向けて、11月20日に第1回史跡小山崎遺跡整備検討委員会を開催しました。会議では、最初に整備する「斜面居住地エリア」の竪穴建物跡と園路の形状について、往時の再現性と来訪者の利用しやすさ等を重視しながら委員の皆様から詳しい内容を審議いただきました。

今回の会議結果を踏まえて、今年度中に「斜面居住地エリア」の実施設計を作成する予定としています。来年度以降、いよいよ動き出す小山崎遺跡整備にぜひご注目いただきたいと思います。



小山崎遺跡 竪穴建物跡イメージ図